

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900866		
法人名	有限会社 エイエスサービス		
事業所名	グループホーム サンホーム		
所在地	田川市大字川宮1711-29		
自己評価作成日	平成27年11月11日	評価結果確定日	平成27年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成27年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者には出来るだけルールを作らないように支援している</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム サンホームは、入居から10年以上の方も多く、入居者の半数が要介護度4で座位保持が難しく、ミキサー食の提供が多くなっている。看取りの経験も豊富で、今年も105歳の方を含む2名の入居者を協力医療機関と24時間の連携をしながら、また最後は家族もホームに泊まり込み、家族も職員も安らかで納得いく支援ができたと振り返っている。前回の運営推進会議では地域包括支援センター職員から出されたペットがいる方の入居が話し合われたり、家族から「記録を書く時間があれば入居者の話し相手になってほしい」や「夜勤専門の職員は入居者の日中の姿が見えないが大丈夫なのか」等の率直な意見に丁寧に対応しながら、全職員が一つのチームとして協力し合いながら、理念である「人生とは人として生きること、その人らしく生きること、人といっしょに生きること」を実践している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **サンホーム1号館**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は各職員が理解したうえで、日常業務の中で実践している	その日の早出、日勤、遅出の職員が一つのチームとして協力し合いながら、理念である「人生とは人として生きること、その人らしく生きること、人といっしょに生きること」を実践している。入居者の起床時間や食事の時間もまちまちで、それぞれの思いに寄り添う支援ができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限りの地域の活動へ参加は行っているが現在の地域では年1、2回の清掃程度しかない	自治会に加入しているが、近隣が3軒だけの特殊な地域性があり、清掃活動や草刈には参加している。大学の看護科の実習の受け入れやホームホスピス事業の立ち上げ予定の事業所から職員の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1回は地域の住民に認知症への理解を深める講座(町委託)を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は運営推進会議を実施しホームでの状況や地域の情報を聞き、サービスの向上にいた活かしている	民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員等の参加で開催し、偶数月に定例化している。前回の会議では地域包括支援センター職員からペットがいる方の入居の問題が出され、話し合われている。会議録は玄関に置き、公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	田川市役所介護保険係とは日常的に事業所の状況を報告し連携をとっている	介護保険課や保護課、地域包括支援センターと日頃から連携し、入居の相談や情報交換に努めている。地区の介護保険事業所全体の団体に所属して、行政と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一回は社内研修を行い管理者・職員で理解を深め身体拘束をしないように実践している	職員ミーティングで研修を行い、具体的に対象になる行為を理解している。日頃から管理者は職員に対して、入居者を職員のペースに合わせようとする事で、入居者の行為を問題行動と捉えてしまうと話し、タイムテーブルを作らずに支援しようと指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一回は社内研修を行い管理者・職員で理解を深め虐待をしないように実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一回は社内研修を行い管理者・職員で権利擁護の理解を深めている	入居契約時に権利擁護の制度についての説明を行い、研修を実施しているが、現在、活用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前、入居契約時に十分に説明を行っているために、入居後のトラブル等は過去にもない		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族がいつでも意見・要望が言える環境が出来ている為にいつでも気軽に意見や要望を聞いている	玄関に意見箱を設置しているが、家族からは投書より口で言ったほうが早いと、訪問時等に気軽に意見が寄せられている。「記録を書く時間があれば入居者の話し相手になってほしい」や「夜勤専門の職員は入居者の日中の姿が見えないが大丈夫なのか」と意見があり、代表者が説明している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングに管理者(代表者)も参加し、職員の意見を聞いて一緒に検討し実施している	毎月、各ユニットごとにミーティングを行い、支援内容の検討や共有を図っている。職員は「1人でダメなら2人、2人でダメならみんなで支援」をモットーに協力し合っている。重度化に伴い提案された、車イス用の体重測定器が購入されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各職員の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人代表者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。	職員の採用は職員の紹介が多く、採用基準はやさしさだけで特に定めていない。働きながら技術を習得できるように、各人の経験に応じた新人研修を実施し、外部研修の参加や資格の取得を奨励している。また、職能訓練制度の研修から入職し、定期的な病院受診を続けながら働く職員もいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に一回は社内研修を行い管理者・職員で理解を深め人権教育を行っている	職員ミーティングで研修を行い、管理者は「入居者を職員のペースに合わせようとする虐待がおこるよ」と日頃から職員を指導している。入浴時等に同性介護を希望する入居者には同性の職員で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力を踏まえ社外研修への参加の機会を設けている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在特に事業所としては取り組んでいない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始前から、本人が困っていること、不安なことや要望等を聞き、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前から、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する前から、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの職員だけが利用者を支援するのではなく、家族も含め一緒に支援していく事を入居契約前から説明し、一緒に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努め面会等の制限など行わず行っている	馴染みの美容院を希望される入居者には、職員が同行している。重度化し、年賀状を書けなくなる方も多く、いただいた年賀状の相手に電話をかける支援をしている。個人で携帯電話を使用される入居者もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終わった家族も気軽に来訪されたり手紙などの関係が出来ている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向を聞き入れられるように職員の業務分担をあまり細かく決めず、いつでも利用者が職員に声掛けや相談が出来るように取り組んでいる	職員は入居者との会話や行動から、本人の意向を把握している。食事や入浴を拒否されても、24時間中に支援できれば良いと考え、思いや意向に寄り添っている。課題がある場合は、全職員で話し合い、対処している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人の生活歴や環境を日常生活の中で活かして暮らせるように支援している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症高齢者が入居している為、各個人の生活パターンに合わせた暮らしが送れるように支援している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす為に家族と話し合い介護計画を作成しているが、現状は重度の入居者が多くパター的な計画にもなっている	入居者の基本情報や介護計画をパソコンに集約し、職員は入力、閲覧することで、自力歩行から、シルバーカー利用、車椅子、寝たきり状態と現在の状態に至るまでの変化を把握しながら、支援している。現状に即した介護計画で、帰宅願望のある入居者は、度々自宅に同行することで、いつでも帰れると安心して、落ち着いて生活している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で気づいたことや、工夫した事があれば、個人記録や申し送り、インターネットを使い情報を共有しながら日常生活に取り組んでいる		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な状況に出来るだけ柔軟に対応できるように業務分担等を必要以上に組み込まず対応できるようにしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源の活用場面があまりないが必要時には活用し各個人を支援していく意思はある		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ入居前からのかかりつけ医を利用し必要に応じて医療機関の選択を家族と共に検討し実践している	本人が受診できる間は、入所前からのかかりつけ医への受診をホームで支援している。重度化して座位保持や待ち時間など無理になってくると家族や本人と話し合い訪問診療ができる医療機関を選択して適切な医療支援をお願いしている。専門医受診も同行して支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて訪問看護員に相談し医療機関への受診の判断を行っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と協力し病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の利用者には家族の意向を聞き、ホームでの看取りを希望する場合は主治医と話し合い、看取りを実施している	入居の問い合わせ段階で、ホームで看取りを希望するケースが多くあり、契約時に対応指針を説明している。管理者は早い段階から家族間の話し合いを勧めている。終末期になると、医師が「看取り宣言書」を作成して、家族、管理者、医師、看護師、ケアマネで話し合い、支援している。今年度は田川診療所と24時間の連携で、家族と共に2名の入居者を看取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを作成し、全職員事故発生時に備えており、急変時でも連絡表を使用し昼夜問わず対応できる体制である		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回の災害訓練、年に2回の消防訓練の実施全職員の連絡表も貼りだしているの で災害時対応が出来る	消防署の協力を受け、入居者と共に避難訓練を実施している。予告をせずに、連絡網を活用した訓練も実施している。防災訓練の日は、カセットコンロを使って非常食を食べている。敷地内に水や食料品等の備蓄品を収納した倉庫がある。	近隣の3軒の住民に対しても、災害時の協力関係を築くために、訓練の参加を呼びかけてはいかがでしょうか。また、救急蘇生法等の研修は、全職員が受講できるようにお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の声掛け等、全職員一人一人が意識をし、行っているが、必要に応じ職員同士で注意できる環境にある	入居者に対する声掛けは、下の名前と呼んだり、本人が一番心地よく感じるように呼びかけている。代表者は自分がされてイヤなことは入居者にも、しないという当たり前のことをやってほしいと指導している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定行える様な声掛けや意思表示が行える環境づくりをしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるも利用者に合わせて出来る限り希望にそって支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時など本人に衣服を選んでもらう等し支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	危険の伴わない準備等を手伝ってもらっている日常会話の中で食べたい物など聞きとったり、季節にあった食材を使用している	各ユニット毎に、職員が交代で食事を作り、嚥下状態に応じてミキサー食等にして提供している。亡くなった入居者が作り始めた畑は、代表者が引き続き野菜を栽培して、食材にしている。収穫したもので茹でピーナツや焼きイモを作り、重度化した入居者にはミキサー食にして提供し、喜ばれている。毎朝、5時位に朝食を食べる入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間通じて水分摂取量、食事の摂取量が必要な量が摂れるように支援している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助や見守りが必要な利用者には毎食後付き添い、磨き残しなどを介助したりしている 介助などが不必要な利用者には声掛けを行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行い支援し、その都度記入している	2ユニット中要介護4が10名と重度化されているが、排泄チェック表で確認しながら入居者に応じた声かけ、見守り、誘導が行われ失敗のない支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、積極的な水分補給や軽い運動に取り組み予防を図っているが必要な場合は主治医へ相談し対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日や時間などの決まりはなくいつでも入れる体制であるが最低でも週2回は入っていただくようにしている	浴室は明るく、広い脱衣室は暖房が行き届きヒートショックを防いでいる。毎日、入浴できるように準備し、拒否があっても時間をあけて声かけすることで入浴できている。同性の介護を希望する入居者には、同性の職員が支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人に合わせた生活リズムであり消灯時間などの決まりはなく、また昼間には適度な疲労感を感じていただけるような工夫も行い支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は一人一人ファイルに閉じ全職員がいつでも確認出来るようにしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせた軽作業や気分転換の為外出などを行い支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば家族と連絡を行い出来る限りの要望に応えられる様にしており、また年間行事計画をたて外出支援を行ったり随時外出したりしている	重度化が進み、外出を億劫に感じる入居者が多くなっているが、彼岸花を見に出かけたり、個別に趣味の編み物の材料を買いに出かけている。病院受診の帰りにお店に立ち寄り、ドライブスルーを利用して楽しんでいる。暖かい季節には、敷地内を散歩することで、気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理出来る利用者には行っていただいているが困難な利用者は家族もしくはホームで管理している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも利用者が電話を使用できる環境である		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・共用空間の清掃に努めると共に季節に応じた共用空間の環境づくりにも配慮している	玄関に椅子を置いて、靴の着脱が座ってできるように配慮されている。玄関やリビングは加湿器や空気清浄機が置かれ、廊下に座り心地の良さそうな椅子やソファが置かれて暖かい光を受けている。昼食後は思い思いにリビングで寛ぎ、テレビを見たり、編み物をする入居者の姿が見られる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でいつでも楽しめる様な環境づくりを行い、時間問わず過ごせる場所づくりを行っている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人好きな様に家具を配置したりして一番過ごしやすく居心地良い環境づくりを行っている	入居者の多くが電動ベッドを使用しているが、普通のベッドや布団を使用する入居者もいる。自宅から持ち込んだダンスや椅子、テレビ、お守りやぬいぐるみを置いて、ゆっくりと過ごせるように配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーであり必要な所には手すりを設置するなどしているが危険な所などがあればその都度対策・対応している		